

単元名 「かくれんぼずかんをつくろう～学習したことを生かし、文章から重要な語や文を選び出す～」（第1学年 C 読むこと）

■本事例のポイント

1. 学習の形態や使用する資料を選択できるようにしたことで、児童の学習調整を促し、深い学びの実現を目指した。
2. 文章に色分けしたラインを引くことで、児童が既習事項を生かしながら重要な語や文を選び出すことができるようとした。

■単元の目標

- (1) 文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。〔知識及び技能〕(1)カ
- (2) 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア
- (3) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ
- (4) 言葉がもつよさを感じとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

■単元の指導計画（9時間）

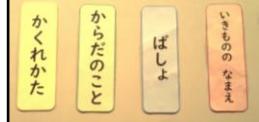
- ①学習計画を立て、学習の見通しをもつ。
- ②文章のまとまりを捉え、「問い合わせ」と「答え」になる3つの生き物について確認する。
- ③「はまぐり」の隠れ方を読み取る。
- ④「たこ」の隠れ方を読み取る。
- ⑤「もくずしょい」の隠れ方を読み取る。
- ⑥同じ生き物について、同じ資料から隠れ方を調べる。
- ⑦自分の選んだ生き物の隠れ方について、調べ方や資料を選択しながら調べる。
- ⑧調べたことを基に、「かくれんぼずかん」を作る。
- ⑨「かくれんぼずかん」を交流し合い、学習の振り返りをする。

■本時の概要

めあて 「じぶんがえらんだいきものについてしらべることができる。」

・めあてを確認し、本時の学習の見通しをもつ。

・「かくれんぼずかん」を作るための調べる観点を確認する。



・自分が選んだ生き物について調べる。



画像内の文章に
線を引いている。

・自分の学習に合わせて、調べ方を「一人で」「友達と」「先生と」から選ぶ。



・資料を「紙」「端末」から選ぶ。

・本時の学習を振り返る。

■学習調整をしている子供の姿

子供が学習課題を選択・決定する場面



並行読書を行うことで、児童の興味・関心を高め、主体的に調べる生き物を選択・決定できました。

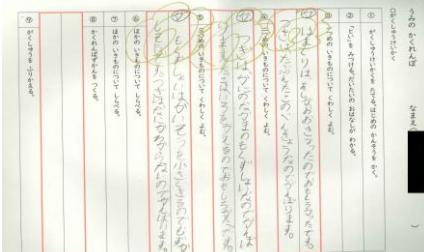


子供が学び方を選択・決定する場面の設定



自分の学習に合わせて「一人で調べる」「友達と調べる」「先生と調べる」の3つから調べ方を選びました。資料も「紙」と「端末」から選びました。

子供が自らの学習を振り返る場面の設定



毎時間、学習感想を書き、前時や次時とのつながりを意識しながら学習できました。



■指導と評価の工夫

①既習事項の掲示

*教科書と科学的な読み物の既習事項（練習としてみんなで同じ生き物についてまとめた）を掲示することで、自分で選んだ生き物について重要な語を選び出す手がかりとなる。

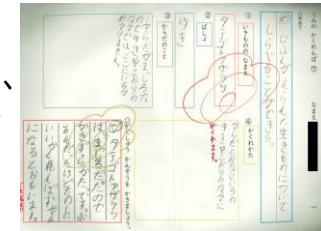


②自分の学習に合わせた学習形態の選択

- *自分に合わせて学習形態を選択することで、自分のペースで調べることができる。
- *早く終った児童は児童同士で交流し、より学習を深めることができる。
- *友達や先生と調べることを選択した児童は、相談しながら調べることで、安心して学習を進めることができる。

③観点の色分けとワークシート

*「生き物の名前」は赤、「隠れる場所」は青、「体の特徴」は緑、「隠れ方」は黄、と色分けしてラインを引くことで、ワークシートにまとめる際に分かりやすくなる。



■成果(○)と課題(▲)

- 選択肢を用意することで、自分の課題に合わせて学習を調整することができた。
- 学習を積み重ねることで、児童の自信につながり、より主体的に学習に向かうことができた。
- ▲「先生と調べる」を選んだ児童は、教師が離れると手が止まってしまう児童が多く、教師の全体把握が難しかった。「先生と調べる」を選んだ児童も、自分で進められるような支援が必要。